

河川の調査

河川の整備や管理を計画的に行うために、雨量・水位・流量の観測や、水質測定などを継続して実施し、川の基本データの収集に努めています。また、多様な動植物が生息する信濃川・魚野川の河川環境を調査するとともに、よりよい河川環境を目指して、川に関わりのある方々や関係機関と連携した検討を行っています。

河道の調査

河川の整備や管理を行うため、測量や空撮などにより、河道の流下能力や河床の変動を把握しています。

無人航空機ドローンによる河道調査状況



(燕市新長地先)



(R3. 8. 26)

河川環境調査

信濃川には、貴重な種も含めた数多くの動植物が生息しており、継続的に生息状況の調査を実施しています。河川工事の実施にあたっては、その生息環境に配慮し、環境保全に努めています。

また、工事実施後は、モニタリング調査を実施し、計画・施工へフィードバックしています。



現地調査状況



サケの遡上状況（妙見堰）

河川の維持管理

信濃川中流域の管理区間114.7km（信濃川：85.6km、魚野川：27.9km、太田川：1.2km）に関する堤防や堰、水門、樋管等の河川管理施設の損傷や不具合、老朽化などの程度を把握しています。

また、増水時の被害防止や河川管理施設の良い状態を保つため、計画的に修繕等を行っています。

河川管理施設等巡視点検

管理区間の洪水や地震の災害に備え、堤防などの河川管理施設等の巡視点検を車両や徒歩により実施しています。あわせて、利用状況の把握、不法投棄対策を行っています。



通常時河川巡視状況

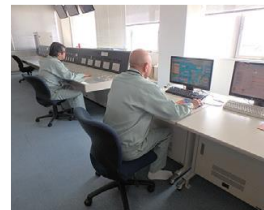


堤防等点検状況

堰等の操作

大河津洗堰・可動堰は、普段は生活用水、かんがい用水、工業用水として必要な流量を調整して、信濃川下流域に流します。洪水時は、大河津分水路を通じて日本海に流すことで越後平野を水害から守っています。

このため、24時間体制で絶えず堰等の操作を行っています。



堰等の操作状況



堤防除草・樹木伐採

堤防等点検や河川巡視を円滑に行ったり、川の中に繁茂した樹木が、洪水の流れを妨げないように、堤防除草や樹木伐採を計画的に実施しています。



堤防除草作業状況 (R3. 9. 9)

カメラによる遠隔監視

洪水リスクの高い箇所については、洪水時の円滑な避難行動や水防活動に資するため、CCTVカメラによりリアルタイム監視し、信濃川河川事務所ホームページや自治体へ状況提供できるよう整備しています。



CCTVカメラ設置状況



CCTVカメラ画像